

## 安全データシート

## 2-メトキシ-5-メチルアニリン

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

## 1. 化学品及び会社情報

## 製品識別子

製品名	: 2-メトキシ-5-メチルアニリン
CB番号	: CB6191898
CAS	: 120-71-8
EINECS番号	: 204-419-1
同義語	: 4,4'-メチレン-ビス-(2-クロロアニリン), 2-メトキシ-5-メチルアニリン

## 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 各種アゾ染料中間物（エオサミンB、コクシニンB、ジアミノファストバイオレットBBNなどの中間物）
推奨されない用途	: なし

## 会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 400-158-6606

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

分類実施日	: GHS改訂4版を使用
	: H25.8.22、政府向けGHS分類ガイダンス(H25.7版)を使用
健康に対する有害性	: 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分2(血液系)
	: 発がん性 区分2
	: 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2A
	: 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分2
	: 急性毒性(経口) 区分4

## 2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

GHS07	GHS08
-------	-------

#### 注意喚起語

危険

#### 危険有害性情報

H350 発がんのおそれ。

H319 強い眼刺激。

H302 飲み込むと有害。

#### 注意書き

#### 安全対策

P280 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

P201 使用前に取扱説明書を入手すること。

#### 応急措置

専門的な使用者に限定。

P337 + P313 眼の刺激が続く場合：医師の診察 / 手当てを受けること。

P308 + P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察 / 手当てを受けること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P301 + P312 + P330 飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。

### 2.3 他の危険有害性

なし

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
別名	: p-Cresidine 6-Methoxy-m-toluidine 5-Methyl-o-anisidine
化学特性(示性式、構造式 等)	: C8H11NO
分子量	: 137.18 g/mol
CAS番号	: 120-71-8
EC番号	: 204-419-1
化審法官報公示番号	: 3-614
安衛法官報公示番号	: -

## 4. 応急措置

### 4.1 必要な応急手当

#### 一般的アドバイス

医師に相談する。この安全データシートを担当医に見せる。

#### 吸入した場合

吸い込んだ場合、新鮮な空気の場所に移す。呼吸していない場合には、人工呼吸を施す。医師に相談する。

#### 皮膚に付着した場合

石けんと多量の水で洗い流す。医師に相談する。

#### 眼に入った場合

多量の水で15分以上よく洗浄し、医師の診察を受けること。

#### 飲み込んだ場合

意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。口を水ですすぐ。医師に相談する。

### 4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

### 4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

---

## 5. 火災時の措置

### 5.1 消火剤

#### 適切な消火剤

水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用すること。

### 5.2 特有の危険有害性

窒素酸化物(NOx)

炭素酸化物

### 5.3 消防士へのアドバイス

消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を装着する。

### 5.4 詳細情報

データなし

---

## 6. 漏出時の措置

### 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

保護具を使用する。粉じんの発生を避ける。蒸気、ミスト、またはガスの呼吸を避ける。十分な換気を確保する。安全な場所に避難する。

粉じんを吸い込まないように留意。個人保護については項目 8 を参照する。

### 6.2 環境に対する注意事項

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。

### 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

粉じんを発生させないように留意して回収し、廃棄する。掃いてシャベルですくいとる。廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。

### 6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 7.1 安全な取扱いのための予防措置

#### 安全取扱注意事項

皮膚や眼への接触を避けること。粉じんやエアゾルを発生させない。安全取扱注意事項曝露を避ける一使用前に特別指示を受ける。

#### 火災及び爆発の予防

粉じんが発生する場所では、換気を適切に行う。

#### 衛生対策

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。休憩前や終業時には手を洗う。注意事項は項目2.2を参照。

### 7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

#### 保管条件

冷所に保管。容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。不活性ガス下に貯蔵する。

### 7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 8.1 管理濃度

#### コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

### 8.2 曝露防止

#### 適切な技術的管理

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。休憩前や終業時には手を洗う。

#### 保護具

##### 眼 / 顔面の保護

EN166に適合するサイドシールド付き保護眼鏡 NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。

##### 皮膚及び身体の保護具

手袋を着用して取扱う。使用前に、必ず手袋を検査する。(手袋外面に触れずに)適切に手袋を脱ぎ、本製品の皮膚への付着を避ける。適用法令およびGLPに従い、使用後に汚染手袋を廃棄する。手を洗い、乾燥させる。

選ばれた防護手袋は、EU指令2016/425の仕様と、それから派生する規格EN374を満たすものでなければならない。

##### フルコンタクト

材質: ブチルゴム

最小厚: 0.3 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Butoject® (KCL 897 / Aldrich Z677647, Size M)

飛沫への接触

材質: クロロプレン

最小厚: 0.6 mm

破過時間: 30 min

試験物質: Camapren® (KCL 722 / Aldrich Z677493, Size M)

データソース: KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, 電話 +49 (0)6659 87300, e-mail sales@kcl.de,

試験方法: EN374

EN374とは違った条件の下で、溶液の中、または他の物質と混ぜて使われる場合は、EC認可手袋の供給業者に問い合わせる。この勧告は単なる助言であり、予想される用途の特定状況に精通した産業衛生専門家並びに安全管理者により評価されなければならない。任意の使用方法について許可を受けていると理解すべきではない。

身体のプロテクト

化学防護服, 特定の作業場に存在する危険物質の濃度および量に応じて、保護装置のタイプを選択しなければならない。

呼吸用保護具

リスクアセスメントによりろ過式呼吸用保護具が適切であると示されている場所では、工学的制御のバックアップとして、N100型 (US) またはP3型 (EN 143) 呼吸用保護具カートリッジ付き全面形呼吸用保護具を使用する。呼吸用保護具が唯一の保護手段である場合、全面形送気マスクを使用する。NIOSH (US) またはCEN (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた呼吸用保護具および部品を使用する。

環境暴露の制御

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。

## 9. 物理的及び化学的性質

### Information on basic physicochemical properties

形状	固体
色	白色
臭い	情報なし
臭いのしきい(閾)値	情報なし
pH	情報なし
情報なし	
情報なし	
情報なし	
log Kow= 1.74:HSDB(2013)	
水:溶けにくい:HSDB(2013) 有機:エーテル、ベンゼン、石油エーテル、エタノールに可	
溶:HSDB(2013)	
情報なし	
情報なし	
1.4Pa (25°C):ICSC (2005)	
情報なし	

情報なし

情報なし

111°C:ICSC (2005)

235°C:ICSC (2005)

51.5°C:ICSC (2005)

**融点・凝固点**

51.5°C:ICSC (2005)

**沸点、初留点及び沸騰範囲**

235°C:ICSC (2005)

**引火点**

111°C:ICSC (2005)

**蒸発速度(酢酸ブチル=1)**

情報なし

**燃焼性(固体、気体)**

情報なし

**燃焼又は爆発範囲**

情報なし

**蒸気圧**

1.4Pa (25°C):ICSC (2005)

**蒸気密度**

情報なし

**比重(相対密度)**

情報なし

**溶解度**

水:溶けにくい:HSDB(2013) 有機:エーテル、ベンゼン、石油エーテル、エタノールに可溶:HSDB(2013)

**n-オクタノール/水分配係数**

log Kow= 1.74:HSDB(2013)

**自然発火温度**

情報なし

**分解温度**

情報なし

**粘度(粘性率)**

## 10. 安定性及び反応性

### 10.1 反応性

データなし

### 10.2 化学的安定性

推奨保管条件下では安定。

### 10.3 危険有害反応可能性

データなし

### 10.4 避けるべき条件

データなし

### 10.5 混触危険物質

強酸化剤

### 10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

---

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

#### 経口

ラットの2件のLD50値: 1,450 mg/kg (DFGOT vol.4 (1992)、IARC 27 (1982))、2,210 mg/kg (DFGOT vol.4 (1992)) が報告されており、区分4と区分外(国連分類基準の区分5)とに該当するが、危険性の高い区分を採用し、区分4とした。

#### 経皮

データ不足のため分類できない。

#### 吸入:ガス

GHSの定義における固体である。

#### 吸入:蒸気

GHSの定義における固体である。

#### 吸入:粉じん及びミスト

データ不足のため分類できない。

### 皮膚腐食性及び皮膚刺激性

ばく露時間は不明であるが、DFGOT vol.4 (1992)の「ウサギの皮膚を中等度に刺激する」との記述、及びHSDB (Access on July 2013)の「皮膚刺激性あり」との記述から、区分2とした。

### 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

DFGOT vol.4 (1992)の「ウサギの眼に重度刺激性である」との記述、及びHSDB (Access on July 2013)の「皮膚刺激性あり」との記述か

ら、区分2Aとした。

## 呼吸器感作性

呼吸器感作性: データ不足のため分類できない。

## 皮膚感作性

皮膚感作性: データ不足のため分類できない。

## 生殖細胞変異原性

データ不足のため分類できない。すなわち、*in vivo*では、マウスの骨髄細胞を用いる小核試験で陰性 (NTP DB (Access on June 2013))、ラットの不定期DNA合成試験で陰性 (DFGOT vol.4 (1992)) である。一方、*in vitro*では、細菌の復帰突然変異試験で陽性、陰性のデータが混在している (IARC 27 (1982)、NTP DB (Access on June 2013)、DFGOT vol.4 (1992))。分類ガイダンスの改訂により区分を変更した。

## 発がん性

IARCで2B (IARC Suppl.7., 1987)、NTPでR (NTP (1981))、EU DSD分類において「Carc. Cat. 2; R45」、EU CLP分類において「Carc. 1B H350」、日本産業衛生学会で2B (産衛学会勧告 (2012)) に分類されていることから、区分2とした。

## 生殖毒性

データ不足のため分類できない。

## 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

マウスを用いた経口投与試験においてメトヘモグロビン濃度の増加が区分2のガイダンス値範囲の用量 (575 mg/kg) で認められたとの記述 (旧分類によるCERIハザードデータ集 (2002) で引用された原著 (J. Ashby (1991)) を入手し確認した) から、区分2 (血液系) とした。

## 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

NTPのラット及びマウスの2年間混餌投与試験 (NTP TR142 (1979)) において、区分2のガイダンス値範囲を超える用量 (10,000 ppm: 500 mg/kg/day相当) でも腫瘍以外に重大な毒性所見は認められていない (DFGOT vol.4 (1992)、IARC 27 (1982) でも引用) との記述より、経口経路では区分外相当であるが、他の経路での毒性情報がなく、データ不足のため分類できないとした。

## 吸引性呼吸器有害性

データ不足のため分類できない。

---

## 12. 環境影響情報

### 12.1 生態毒性

データなし

### 12.2 残留性・分解性

データなし

### 12.3 生体蓄積性

データなし

### 12.4 土壌中の移動性

データなし



## 12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

---

## 13. 廃棄上の注意

### 13.1 廃棄物処理方法

#### 製品

免許を有する廃棄物処理業者に、余剰物で再使用不可の溶液として処理を依頼する。可燃性溶剤に溶解または混合し、アフターバーナーとスクラパーが備えられた化学焼却炉で焼却する。汚染容器及び包装製品入り容器と同様に処分する。

---

## 14. 輸送上の注意

### 14.1 国連番号

ADR/RID（陸上規制）:- IMDG（海上規制）:- IATA-DGR（航空規制）:-

### 14.2 国連輸送名

IATA-DGR（航空規制）: Not dangerous goods

IMDG（海上規制）: Not dangerous goods

ADR/RID（陸上規制）: 非危険物

### 14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）:- IMDG（海上規制）:- IATA-DGR（航空規制）:-

### 14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）:- IMDG（海上規制）:- IATA-DGR（航空規制）:-

### 14.5 環境危険有害性

非該当

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）: 非該当

### 14.6 特別の安全対策

### 14.7 混触危険物質

国際輸送に関する国連勧告の定義上は、危険物に該当しない。

詳細情報

強酸化剤

---

## 15. 適用法令

### 労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険有害物(法第57条、施行令第18条別表第9) 名称等を通知すべき危険有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) リ

## 化学物質排出把握管理促進法

### 第1種指定化学物質

---

## 16. その他の情報

### 略語と頭字語

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際輸送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

### 参考文献

- 【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>
- 【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>
- 【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>
- 【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>  
<http://www.echemportal.org/echemportal/index?>  
pageID=0&request\_locale=en
- 【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

#### 免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。